

[令和5年度] 第11回 飯田市新文化会館検討委員会 会議録

会議名称	第11回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和6年3月28日(木) 午後6時30分～8時
開催場所	飯田人形劇場
出席委員 (敬称略・ 順不同)	上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、高松和子、田中悦雄 原田雅弘、賜正俊、飯島剛、桑原利彦、小木曾俊夫 前澤正徳、森本典子、小澤櫻作、佐々木宏幸、山元浩
欠席委員 (敬称略・ 順不同)	片桐啓、黒河内智子、佐々木祥二、高山和夫、遠山あづみ
オブザーバー (敬称略)	井坪隆
出席事務局職員	飯田市：市長 佐藤健 教育委員会：教育長 熊谷邦千加、教育次長 秦野高彦 統括支援担当専門主査 松下徹 文化会館：館長 下井善彦 館長補佐兼文化会館建設担当専門主査 筒井文彦 管理係：和田健太郎 事業係：白井美樹、中島弘貴 人形劇のまちづくり係：係長 大島芙美恵
会議の概要	1 開会 2 議事 (1) 今後の進め方【資料No.1】 (2) 基本構想(最終版)の報告【資料No.2】 3 パネルディスカッション[特別対談] 4 事務連絡 5 閉会

※次ページ以降の会議録(発言内容)には委員の氏名を掲載いたしません。

令和5年度 第11回 飯田市新文化会館検討委員会 会議録

令和6年3月28日（木） 午後6時30分 開会

1 開 会

○委員長 こんばんは。

ただいまから第11回新文化会館整備検討委員会を開催させていただきます。

本日、片桐委員、黒河内委員、佐々木委員、高山委員、遠山委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、報告させていただきます。

これまでと同様に、学識委員である明治大学佐々木先生の研究室の学生さんが傍聴にお越しなので、ご報告させていただきます。

また、今日の委員会は、基本構想の最終報告ということで、前年度まで飯田市校長会のお立場で委員を務められておりました、前飯田東中学校校長の賜さんにもご出席いただいております。

今後は、基本構想の考え方をよりどころにしながら、基本計画の検討へと進んでいくこととなります。次年度の進め方については、後ほど事務局から説明があります。

それでは、本日は佐藤市長が出席してくださっておりますので、一言ごあいさつを頂きます。市長、お願いします。

○市長佐藤 皆さん、こんばんは。

年度末もギリギリの3月28日という大変お忙しい中、第11回の整備検討委員会に、委員の皆様のご出席をいただきまして、ありがとうございます。また、今日は人形劇場という場所ですので、傍聴席を設けて市議会の皆さんをはじめ、傍聴いただいております。傍聴いただいている皆さんにも感謝を申し上げたいと思います。

本日、11回目の委員会ということで、これまで10回にわたって委員長の下で議論を重ねてきていただいたわけですが、始まる前に、ここまでの検討状況についてショートムービーが流れて見ておりましたが、改めて本当に深い議論をしていただいたのだなということが、映像の中でも見えました。

各委員会の会議の様子は、議事録を私もつぶさに読んでおりましたので、先ほど出てきた発言も読んでいるわけですが、本当に「飯田らしさとは」から始まって、非常に深い議論を

していただいて、今日に至っていると思っています。各分野を代表して委員になっていただいた皆さん、そして公募で参加していただいた皆さん、そして学識委員としてご参加いただいた3名の皆さん、皆さんのおかげで基本構想がまとまり、改めて感謝を申し上げたいと思います。

皆さんのお手元に最終版の基本構想が届けられていますが、基本理念「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」という言葉から、さらに掘り下げて基本構想という形でまとまり、2月にパブリックコメントを行い、市議会にもご報告をして、そして内部手続きを経て、本日まとまったものをご報告するということとなりました。

基本構想に書かれていることは、本当に飯田文化会館のあり方の議論であったのだと思います。これからの、あるいはこれまでの、飯田市の、あるいはこの地域の文化に対する取組であり、これからどうしていくのかという方向性、そういったものが、本当に膨大な議論の時間から見ればこの短い一冊になっているわけですが、詰まった内容になっているなと思っています。

来年度は、基本計画という形で学識委員の皆さんや専門家の皆さんを中心に議論をしていくわけですが、また委員の皆様には引き続きご意見を伺っていく場面が出てくると思います。さきほど映像の中で「現実にすり合わせていかなければいけない」という話もあり、そういうさらにハードルが高い議論に進んでいくわけですが、令和4年度から2年間にわたる議論がさらに形になっていく過程もぜひ皆さんにも関わっていただいて形にしていきたいと思っていますので、引き続きのご協力をよろしくお願いします。

今日は、最後の委員会ということで基本構想の報告をさせていただきますが、後半には3人の学識委員の皆さんを中心に、「基本計画に期待するもの」をテーマにパネルディスカッションをしていただきます。私もしっかり聞かせていただいて、来年度からの基本計画の検討に生かしてまいりますので、よろしくお願いします。

(拍手)

○委員長 ありがとうございます。

2 議 事

○委員長 それでは早速ですが議事に入ります。

(1) 今後の進め方

○委員長 初めに(1)今後の進め方について、事務局から説明をお願いします。

○教育次長秦野 教育次長の秦野です。よろしく申し上げます。

今、市長からもあいさつさせていただきましたが、委員の皆様、誠に長い間ご協力いただきまして感謝を申し上げます。

これからの進め方について説明させていただきます。まずは本日お配りした資料の3ページ、資料No.1をご覧ください。

一昨年の6月から、委員の皆様には基本構想の検討をお願いしてまいりました。今年2月のパブリックコメントや議会への報告、庁内の手続きを経まして、基本構想が成案になったということで、後ほどご報告させていただきます。

資料に「今回」とありますが、これ以降、令和6年度は基本計画の策定を行っていきます。この基本計画は、より具体的な施設の規模や設備を含めた機能、概算の事業費や事業スケジュールなど具体的な計画です。

まず、次年度となりましたら、専門家会議を中心に基本計画のたたき台を作成していく予定です。このたたき台という素案に関して、整備検討委員会の皆様と意見交換を行い、その意見交換を含めながら成案化していきたいと考えています。そこで、委員の皆様には令和6年3月までの任期でお願いしていますが、基本計画の策定についても、ご意見を頂くようなお力添えを頂ければと考えていますので、よろしく申し上げます。

具体的には、委員の皆様には、来年度の後半をめどに複数回、意見交換させていただく機会を持ちたいと考えています。それに併せて、市民ワークショップや施設の利用団体の皆様との意見交換も行いたいと考えています。ぜひ、これからも皆様にご意見を頂きたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いします。

前回の委員会でも、委員の皆様からご発言をいただいておりますが、これから基本計画の段階に入りますと、基本構想で検討していただいた理想をどのように実現していくか、持続的な事業や施設にしていくかが求められてきます。今後は建設候補地も含めて、総合的な検討を進めたいと考えていますので、今後もよろしく申し上げます。

以上です。

○委員長 ただいま（1）の今後の進め方について説明がありました。

ご質問等ありましたらご発言いただきたいと思います。

発言される場合には、挙手していただき、お名前をおっしゃってから着座のまま発言いただくようにお願いします。それではどうぞ。

（発言する者なし）

○委員長 特によろしいですか。

それでは、次の議事に進みます。

(2) 基本構想（最終版）の報告

○委員長 (2) 基本構想の報告に進みます。

事務局から説明をお願いします。

○館長下井 事務局の下井です。よろしくお願いします。基本構想の説明をさせていただきます。

それでは、まず「概要版」というA3判見開きのもので主に説明をいたします。今日の資料No.2について、まずは説明させていただきます。

先ほども紹介がありましたが、基本構想についてパブリックコメントを2月に行いました。パブリックコメントに4名の方から14項目にわたってご意見を頂き、その一覧を資料に記載しております。

7つ目のご意見について説明させていただきます。基本理念「感動の飯田ひろば」に関することで、中段に基本理念には『鑑賞』という言葉があるが、『観る』という言葉があっても『聴く』ことも大切ではないのか」というご意見を頂きました。これについては、「観る」というのは「鑑賞」という意味ももちろん含みますし、これは「聴く」ということを含んでいるということで、ご理解いただきたいと思います。キーワードとしては、「観る」ということで代表しているとご理解いただきたいと思います。

その他いくつかありますが、誤字や字句を修正しております。

これについては、前回の委員会、この委員会、それからその後のアンケートも頂きました。それから市役所の中では庁内プロジェクトも行っておりますので、それらの意見も反映させていただいて基本構想としております。

それでは、概要版の説明をさせていただきますので、よろしくお願いします。

開いていただいて左上から、飯田文化会館は築51年が経過しており、多々不具合が出ていることは承知のことかと思えます。

令和4年6月にこの整備検討委員会が立ち上がり、皆さんに今日を含めれば11回の議論をいただいて、この基本構想にまとまりました。これは新しい文化会館の進むべき方向性を描いたものとなります。建設に向けて関係してきますが、その後の管理運営、維持管理も含めて、この文化会館が新しくなった後も恒久的にその事業や施設運営のよりどころとなっていく大切なもの、ということをご押さえています。

基本理念は「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」です。これは「心が満たされる鑑賞の機会を提供する。伝統文化や伝統芸能や人形劇など、飯田ならではの文化を発

展させて、さらに新たな舞台芸術を創造し、そして魅力に溢れた飯田ひろばを目指して、舞台芸術の振興だけにとどまらず、地域を担う人材を発掘育成し、文化力の高いまちをつくり、地域発展の活力を生み出すことへと備えていきます」としています。

この基本理念が描いている新しい文化会館のイメージとして、5つのポイントを挙げています。時間の関係もありますので、説明は省略させていただきます。その下に大きな字で「楽しさや喜びを感じて、より心豊かな人生となってほしい」という思いがあります。また、その下にイメージ図があります。「集う」・「観る」・「創る」・「伝える」・「育む」という5つのキーワードが並んでいます。このキーワードは、右ページの基本方針につながっていきます。この5つのキーワードと関連した活動を通じて「感動の飯田ひろば」を実現していきたいと考えています。左ページに戻っていただき、左下の図を再びご覧いただきたいのですが、その先には「ひと」を育み、「まち」を育み、「活力」を生み出すことにつなげていきたい、それらが関連して文化活動につながっていくのだとイメージしています。

再び右ページにまいります。基本方針と想定する事業ということで、そこに5つのキーワードにつながる方向性等が記載してあります。

まず、基本方針「集う」では、今まで舞台芸術にあまり関心のない方でもぜひ文化会館に足を運んでほしい。日常的に集い、交流できる施設を目指したいとしています。

次に「観る」では、優れた舞台芸術に触れて心が満たされる鑑賞の機会を提供したいと考えています。

「創る」では、さまざまなジャンルの舞台芸術作品を創り出す施設であり、高速交通網時代、リニア時代、それらのつながりによってさまざまな文化的要素を取り入れて融合させ、飯田ならではの舞台芸術を創造・発信する施設としたいと考えています。

それから「伝える」では、舞台に立って自分を表現し、思いを他者に伝えるという舞台芸術活動が活発に行われる施設を目指したい。市民の舞台芸術活動の思いや熱量、市民による事業の企画運営に関する知識や手法など、飯田の特長を次世代につないでいく活動を大切にしたいということで、その下欄に想定する事業を載せていますが、「観る」「聞く」「演じる」「支える」市民の拡大という普及事業、それから継承事業、情報発信事業を考えています。

最後の「育む」ですが、飯田が文化力の高いまちとして発展することを目指し、舞台芸術の演じ手や支え手の育成に取り組んでいきたいと思えます。

最後になりますが、「今後は基本理念に基づく基本方針の実現に向けて、ホール構成、誰もが立ち寄れるオープンスペース、リハーサル室や工作ができる創造支援諸室など、必要な機能の設置や施設諸室の適切な配置などの検討を進め、飯田らしい事業展開ができる施設を目

指して整備していきます」としています。

概要版の説明は以上です、本編はまたご覧いただきたいと思います。

説明は以上です。

○委員長 ただいま（２）基本構想の報告で、概要版を中心に事務局から説明をいただきました。

本日は、委員の皆様全員から、これまでの委員会を振り返っての感想や今後の整備に向けての期待などのお話をいただきたいと思っております。

今回の委員会は、基本構想が最終段階となりましたので、突然で申し訳ありませんが感想をお願いします。

○委員 よろしく申し上げます。

先ほど「発表してほしい」と言われたので今お話を聞きながら、昨年度の会議のことを思い返して何をしゃべろうかと思っていました。

私は、〇〇という立場から会に参加させていただいていたのですが、意見交換をする中で、改めて飯田の方々というのは、いろいろなことを考え、いろいろなことに取り組んでいらっしゃる方がたくさんいるのだなということを感じて、ここにある「感動」ですかね、心が打たれました。そうしたところにこの立場からどう関わられるのかと考えて、この検討委員会のほうに参加させていただいたのですが、まとまった基本理念というのは、私は素晴らしい、いいことだなと思っています。「みんなが集い」という中には、当然小中学生も含まれると思いますし、小中学生だけでなく、年配の方や青年の方、いろいろな方がいて、多様な世代の人たちと触れ合い、一緒になってつくり、いろいろなことを伝え合う中で、心を動かせる感動が生まれます。私が小中学生に期待したいのは、憧れが生まれてもらいたいということです。先ほど、「育む」が最後に出てきたのですが、憧れを育む場であってほしいなと思います。「あんな文化活動をやってみたい」とか、「ああいう活動をしている大人になってみたい」、「あの文化会館のステージに立ってみたい」、さまざまな憧れが生まれる場になっていく、そうした出会いの場になっていくことを期待したいと思っています。

現在、私が取り組んでいる内容と今回の議論は、重なる部分が本当にたくさんありますので、今回、学ばせていただいたことをそこにも生かしていきたいと思っています。

ありがとうございました。

○委員長 突然の振りなのに、ありがとうございました。

それでは、委員の皆様全員からも感想をいただきたいと思います。〇〇さんからお願いします。

○委員 こんばんは。私は〇〇の代表という立場で参加させていただきました。

今思うと、和4年6月から第1回が始まって10回議論を重ねて、残念ながら1回参加できなかったことがありましたが、1回目のときに、いろいろな立場の方からいろいろなご意見をお聞きするということが、非常に私にとって新しい勉強でした。

そういった中で、どうまとまっていくか非常に興味を持っていましたが、回を重ねるごとに皆さんの気持ちも乗ってきたといえますか、まとまってきて、先ほども冊子を見させていただき、過去に話し合われた内容が非常にうまくまとまっている構想・理念だと感じています。

立場によっていろいろなご意見があることが、非常に勉強になり「なるほど」と、また「飯田とはどういうふう」、「飯田らしさ」という問題が非常にクローズアップされ、日頃そういうことを考えていなかったのも、こういう機会をいただき自分なりの意見も出させていただきました。この冊子にまとまっている以外にも、非常にいい意見がかなり出ていました。これから計画に入るわけですが、それにどう生かされていくか、非常に期待しています。

委員の皆さん、全て新文化会館にかける思いが強いということを非常に感じた会議であったと思います。

以上です

○委員長 ありがとうございます。

今の〇〇さんを先頭に右へ回っていきたいと思います。

〇〇さんお願いします。

○委員 気持ちが整わないうちに順番が回ってきてしまいました。これから考えようと思っていたところなのですが。

私は、〇〇の立場で参加させていただいています。主にその視点でここに参加させていただいていると思っています。

この人形劇が飯田で、全国で広がっているのは、もちろん行政の方が頑張られたということもあると思うのですが、全国の人形劇人、あるいは若手の学生さんたちが、この人形劇という文化を広げていく大きな役割を果たしてくれたのではないかと考えています。今は人形劇センターができて、少人数ですが今後の有り様について検討していく体制に入っています。なかなか少人数なので、思い切ったことができずにいるのですが、夢は大きく、人形劇のまちとして脱皮していかなければと思っています。

当然、人形劇という文化財は、人形劇だけの単独ではなく、お話を聞くことや、演奏を聴くこととの関連の中の大きな文化の枠の中にあると思っています。人形劇を知らない方は子どもたちが喜ぶものと思われている方も多いと思いますが、飯田は伝統の大きな人形劇もあ

るので、生かしながら、飯田らしい文化の中心となるような、人形劇のまちがつくれたらいいなとも思っています。

人形劇の世界も覗いて見ていただくと面白い発見がたくさんあると思います。人形というのは大昔からあるもので、人々の心を動かすというか、抑えるというか、良い意味で落ち着かせてくれる何かを持っているんじゃないかというふうにも思っておりますので、お暇がありましたら、どうぞ人形劇の世界を覗いていただくとうれしいと思っております。また、こういうことをこういう場でお話できてうれしく思っています。

いつも人形劇人だけが集まって人形劇の話をしてはいますが、もっと幅広いところでいろいろご検討いただく機会があれば、うれしいです。

よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

以前に、〇〇先生が『飯田らしさ』とは飯田の中だけで閉じこもっていることじゃなくて、全世界に向けて発信することだ」とおっしゃられたので、そのことがすごく今、胸に残っています。ありがとうございました。

それじゃあ、〇〇さんお願いします。

○委員 こんばんは。

〇〇という立場で出させていただいております。

今までいろいろなタレントを呼んで、文化会館をいっぱいにしようとかそういうことで、さっき先生からお話があった「憧れ」という部分で、いろいろな若手、それからクラシック、フォーク、いろいろなジャンルを文化会館へ招致するという、そのような役目をしております。飯田も、私も音楽は50数年関わっておりますが、ステージでやっている人たちに憧れを持つことが一つのいいことかなと。おかげでグリムスパンキーみたいに地元からもメジャーな方が出てくる。そういう一つの励みの場になれば、それが集い合って、みんなで鑑賞し合うことがこの地域に役立つのかなと思っております。これから新しい文化会館ができて、そういう一つのシンボルになればいいと思っております。

以上です。

○委員長 ありがとうございました。

それでは続きまして、〇〇委員さんお願いします。

○委員 こんばんは。

私、先日、東京の下北沢で行われた、国際人形劇フェスティバルに参加してきました。そこでシンポジウムのようなものがあり、私の隣にいた人形劇を研究している大学の先生と話

をしたら、「飯田から来たのですか。飯田は何回か行ったけど、ぜひもっと深く研究したいと思っている」と話をしていたら、筑波大学の学生が来て、「いつも参加させていただいています。よろしくお願いします」って入ってきて、向かいのアメリカ人の団体もいい大人形劇フェスタをご存じで、皆さんが非常に興味を持ってくださっていて、すごいなと改めて思いました。

若い皆さんは、「飯田なんて」と思っている部分が結構あると思います。でも、実際地域外に行ってみると、「飯田は実はすごいんだ」ということを気付かされる子どもたちも非常にたくさんいると思っています。高校までは当たり前だと思って過ごしていても、外に出たらその当たり前が全然見当たらない。「ああ、そういうまちだったんだ、飯田は」ということを改めて、気づくような子どもたちの話を聞いたことがあります。

そうした意味でも、この飯田で生まれ育った子どもたちが、どれだけ自分の生まれ故郷の飯田を誇りに思って生きていくことができるか、帰ってくるとか帰ってこないのかももちろん大事ですが、それ以前にやはり飯田で生まれたこと、飯田で育ってきたことを誇りを持って語れるかどうか非常に大事だということを、ずっと思いながらフェスタをやってきました。「人形劇のまちって何」ってよく言われます。そのときにもう数十年言い続けているのは、飯田で生まれ育った子どもたちが胸を張って「私の故郷は人形劇のまち、飯田なんだ」と言えることが、人形劇のまちだと私は思っています。

ただ、最近、非常に懸念しているのは、このコロナ禍の数年間の中で、実際に見たり参加したりするということと、パソコン上とかウェブ上で見るということで、価値の違いが分からなくなってきていると非常に感じています。それは我々も含め、いろいろな舞台芸術に関わる人にとって非常に危機感を持って捉えていることなのだろうと思います。先ほどの下北沢のフェスティバルで実際に、イギリスの人形劇を見ました。久しぶりに人形劇を見て、腹を抱えて笑ったわけです。実際に目の前でやっているのを見ると、ウェブ上で見るのと全然違う、そのことを私は今の子どもたちに本当に感じてほしいし、分かっているほしい。

そのためにも舞台として必要なのは、文化会館のような施設で、限られた人だけでなく、いろいろな子どもたちやいろいろな大人たちが集まって触れることができる、そんな場所になっていったらいいと思います。そんな場所がある飯田が、自分たちにとってこのまちで生きている誇りであるということを感じてもらえる一つの要因になってくると思います。

これから私たちは、ライブでものを見ることの大切さや素晴らしさを今まで以上に意識して、皆さんに訴えていかないといけない。そんな場として、この文化会館という場所をより活用できたらいい。どんなものができたらいいとか、どんな設備になったらいいとかいう以

上に、そういう場になってほしいと私は感じます。

例えば、人形劇をした「ザ・スズナリ」というホールは、すごく急な階段を上がって、ひしめき合いながら芝居を見ました。そんなハコだけど、そこで見たということが非常に自分の中に刻み込まれる場所だったなと思います。そういうところになってほしい。

そこを利用する皆が手垢をつけて、だんだんとその文化会館の本来の姿に近づけていく。そんな場所になれたらいいと思っています。

よろしくをお願いします。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、〇〇さんをお願いします。

○委員 こんばんは。

この2月から3月にかけて、丘の上で面白い催し物に参加しました。一つは、昔の飯田の芸子さんの舞台を復活させようと、何人か素人さんが集まってお師匠さんに三味線、琴や踊りを習い、それを披露する。それを地元企業の社長らいろいろな人が会員になって支えていくという場でした。

もう一つ、お寺で落語がありまして、それがたまたま私の檀家のお寺で、その住職はもともと飯田の方ではないのですが、ぜひやりたいということで、やってみました。そこにお集まりいただいていた皆さんは、基本的にはプレイヤーではないし、アーティストでもない、活動を支えたり、自分たちでつくってきたりしている方々でした。ある時、飯田の文化の特徴を民族学の先生がおっしゃっていたのですが、どこへ行ってもいろいろな伝統芸能があるが、本当は参加して自分がプレイヤーになるのが一番楽しい。でも、上手下手があるので、なかなか参加するわけにはいかない。ただ、「みんなで作っていくという参加の仕方が、きちんと残っていく。また、伝わっていく、広がっていくことが一番大事なことはないか」という話がありました。

そういう意味では基本理念で書いてある「集う」から始まって活動を展開していくのは、この一年半の中でよくまとまった基本理念だなと思っています。

ただ、基本構想を読んでいくと、この基本理念自体をもう少しきちんと説明している表現がなく、基本理念という、どうしても舞台芸術に偏った表現になっているのが少し残念かなと思います。基本理念は文化会館だけではなくて、皆さんが議論してきたように、飯田の文化の飯田らしさというのを言い換えているので、そこをもう少し書き込んでほしかったところなんです。ただ、全体を読めばこの思いが次のところで活動でつながっていく場所とか体制がきちんと議論されているので、実現できるといいなと思っています。

どうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

次に、〇〇さん、お願いします。

○委員 皆さん、こんばんは。

私はいろいろな文化関係とかに参加しているということで呼ばれていると思っています。

いろいろな人たちのいろいろな意見や、いろいろな思いがあって、本当に夢が膨らむ素晴らしい話がたくさんできたと思っています。でも一つ、学識委員で参加されている〇〇先生の話の中で、「いろいろな夢はあるし、いろいろな形をつくっていきたいとは思いますが、でもやっぱりいろいろな制限があって、優先順位というのがすごく必要になると。全てが叶うものじゃない」という話がすごく印象的でした。その優先すべきことを考えると、僕は若い皆さんとのつながりがいろいろあって、若い皆さんは本当に可能性がすごく高く、そんな中で、その子たちが育つとはどういうことかと考えると、「環境」だと思います。その環境をつくるのがすごく大事だと思ひまして、〇〇さんもさっきおっしゃったように、小学生、中学生、高校生、幼稚園の子ども、その子たちにとっての日常で文化に触れることがすごく大事ではないかなと感じます。自分自身も演奏する立場などいろいろあって、こうなるといいと思うのが、これからの未来を担って、これからの未来をデザインしていく若い皆さん、子どもたちがどういうふうに育っていくかを考えたときに、その環境を提供できるような文化施設が身近にあることがすごく大事ではないかと考えます。

昔、ラジオで聞いたすごく印象的なコマーシャルがあります。音楽のまちと言われるウィーンにはウィーン少年合唱団があります。そのコマーシャルでは、ウィーン少年合唱団の子どもたちは世界的に有名な合唱団で、素晴らしい音楽を奏でる。でも、その子たちは、団を抜けて普通の仕事に就く。ウィーンのまちが音楽のまちになっている一番の大きな要因は、そういう子たちが普段の生活の中に入っている。それを考えたときに、環境がどれだけ大事なのかとすごく感じます。そんな文化会館になればいいなと思っています。

よろしくお願いします。

○委員長 ありがとうございました。

それでは、〇〇さんお願いします。

○委員 皆さん、こんばんは。

私は、〇〇の立場で、ここに参加しております。最初に出てきたときは、場違いな感じがしましたが、長い時間をかけて基本理念から基本構想まで論議をして、まとめあげてきました。そんな中で、私自身は「集う」という言葉が一番大事かと思っています。誰もが集って、

その場でまた楽しむ文化会館にしていきたいと思います。今後の基本計画では、若い方の意見や言葉を取り入れていくことが大事ではと感じています。

それらも含めまして、これから基本計画に入っていきますが、誰もが足を運んでくれる文化会館にしていくことが大事だと思っています。そこを特に感じたので、ぜひ今後は若い方を入れたり、別のグループをつくったりして意見をもっと聞いていくことも大事かと思っています。

私自身を考えれば先は短く、若い方は何十年と文化会館に関わっていくので、ぜひお願いをしたいと思います。

そんなことが現在の私の思いです。

○委員長 ありがとうございます。

次に、〇〇さん、お願いします。

○委員 こんばんは。

私、〇〇の観点からお話ができたらと思い参加しました。

この理念の中で、「創り」と「感動」という言葉に惹かれるところがあります。

技術的なもので舞台をつくり上げ、観客の感動を呼び起こすことを技術の面で支えられたらと、思っております。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは〇〇さんお願いします。

○委員 こんばんは。

私は一般公募でここにいる立場ですが、ダンスや歌で舞台に立ち、いろいろなイベントに顔を出して、実際にやっている者です。上手とかではないですが、そういう立場の人の意見も大事かと思い、ここに入れていただきました。ありがとうございます。

振り返ると、子どものときに、飯田子ども劇場という生の舞台を見る団体に入っていて、飯田文化会館に来ると楽しいことがたくさんありました。人形劇や生のお芝居、音楽とかを見て、飯田文化会館は子ども劇場のためにあると思っていた子どもでした。そういう生の体験と、自分が楽しかったことをずっと心の中で覚えていたと思って、小さい頃はバレエもダンスの団体もなかったのが、今、いろいろなことを始めて、仕事が終わった余暇の時間を楽しんでいます。そこで今があるのは仲間がいたり、その場所があったり、発表する会場があったり、いろいろな方のおかげで自分があると思っています。

その延長で、30年くらい前に飯田で市民創作ミュージカル「かざこし姫と仲間たち」があ

り、そこにも出ささせていただきました。とても楽しくて、今振り返っても最近のような気がします。終わったときに私なりに考え、この飯田だってどんなこともできるなということと、そういう人がいて、館があって、行政が支えてくれて、みんなの力でちゃんとできると本当に思い、ありがたいことだなと思っています。

それをちゃんと若い皆さんに伝えたいと思っているのですが、私たちの時代と違って、いろいろな方々が飯田に入ってきていて、例えば、ダンスも東京や名古屋といった都市から先生が来て、地元の子どもたちを教えてくれています。その中でも、飯田で子どものときにダンスで秋の芸術祭に毎年出ている子が今、指導者になり、次の世代の子どもたちを教えます。先日、世界一になったダンスチームの高校三年生の女の子と話をしたら、「東京に行ってダンスやるけど、〇〇さん、私、飯田に帰ってきたい」と言っていました。それがどう叶うかは分かりませんが、ここで育ててもらった、ここで楽しいことを教えてもらった、今度は自分が返したいという気持ちを伝えてくれて、〇〇さんのお話のように、環境をつくって、人が待っていて、そこにまた新たな活動ができればいいと思っています。

そんな素敵な飯田になるよう、私も努力したいですし、これからもよろしく願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。

最後におっしゃった「素敵な飯田に」がいいですね。

それでは、最後に〇〇さんお願いします。

○委員 私は〇〇の立場から参加させていただきました。

この委員会で、一番驚くのは、意見が皆さんからたくさん出てくるということです。その一番のもとになっていると思うのは、飯田方式、私が勝手に言っているのですが。全国の多くの文化会館が貸館事業で成り立っている。行政が管理業者を指定して、貸館を中心に事業を行っていくことに対して、飯田は会館の中に市の事業部を置いて、自主事業を10以上やり、実行委員会形式で行われている。この方式のすごさが、この委員会でもいろいろな意見につながっていたということを感じています。

今回まとまった構想が、文化会館に反映されることを望みますが、私はどんな箱物ができても、この方式が維持されることが、飯田の文化をつなげていく一番の肝になると再認識させていただきました。基本的には、施設は使う者のためにあるので、委員の皆さんは飯田の文化事業に直接関わってくれている方が多く、この方式が続けば、文化会館がどんな形であっても、どこにできても、心配ないと思っています。ぜひこの飯田方式を守っていただくことが、この文化会館を次の世代につなげていくと期待しています。

それから付け加えて申し訳ないのですが、私は長野県の事業承継コーディネーターを務めています。全国の中小企業の25年前の一番山の高い層は47歳、それが今は70歳になっている。つまりこの25年でほぼ事業承継が進んでいないという課題があります。高齢化社会なので自然なことと思えるのですが、「年齢が高い分、保守的になっていくので、なるべく若い経営者に交代していくほうがいいですよ」とお話をさせていただいています。この文化事業も、次の世代にどうつなげていくかが課題だと思います。決してシニアに退けと言っているわけではなく、シニアにはシニアの役割があります。若い世代につなげていくことが、次の文化事業を長く飯田でつなげていくことにつながると思いますので、それも含めて本当にいい委員会だったと思っています。失礼します。

○委員長 はい、ありがとうございました。

それでは続いて、学識委員の皆さんとオブザーバーから感想をお聞きしたいと思います。

○学識委員 皆様、こんばんは、〇〇です。

私は、本当にすごくたくさん経験させてもらいました。ありがとうございました。

その中で、先ほどの動画を見て、「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」の言葉が本当にグッと入ってきました。なぜかと言うと、参加させていただいていた委員会のあのときの意見だとか、あのときのあの方の思いがここに反映されたな、というように、本当に密度の濃いというか高いというか、コミュニケーションの中で生まれてきたものだなと実感して、とても感動していました。

少し話は変わるのですが、先日、全国の公共ホールの運営者が集う会議と申しますか、勉強会に参加しました。その中でとある方が、〇〇さんがおっしゃったように貸館の話を持ち出され、貸館事業しか取り組んでいないホールのことに触れている方がおられました。自分たちホールが考えて運営していくことは、事業を企画して運営していくかも大事ですけども、まずは市民の皆さんの活動、文化活動の華やかさ、そこに公共ホールの運営者は注目しているところがあります。その視点から今日の動画も見させていただくと、飯田はすごいなと実感しました。

なぜかと言いますと、この「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」の中の基本方針の5つ、これは皆さんの、集って、観て、創って、伝えて、育んできたという経験と思いを寄せられたんだと実感しました。

加えて、飯田の華やかさ、市民の皆さんの活動の華やかさがどこにあるんだろうと考えていたんですが、分かりました。プレイヤーだけじゃなく、支えるスタッフ側の市民も多い

る、その視点もとても大事だなと思いましたので、これから新しい文化会館ができたときに、飯田方式、プレイヤーと支える側、この思いの継承が大事だなと実感した会となりました。

ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

続いて〇〇さんお願いします。

○学識委員 〇〇です。こんばんは。

今まで皆さんがおっしゃったように、本当にこの会が毎回毎回活発で、今日も「飯田らしさ」という言葉が頻繁に出てきています。私は「アフィニス夏の音楽祭」の頃から20年以上飯田に定期的に通っているのですが、最初に来て驚いたのが、〇〇さんもおっしゃいましたが、飯田方式という、文化会館に集う人たちが演者でもあり、裏方でもあり、いろいろな形で携わる方が多いと感じました。行政が施設を用意するけど、中身は、市民の皆さんの携わり方が非常に多いことが飯田の特性ではないかと思っていました。

毎回毎回の会議でも皆さんご自身の言葉できちっと意見をお話になり、ほかのまちではあまりないことでした。ほかのまちの会議では意見言わない方が多く、非常に会議が薄くなってしまいがちですが、飯田はそうではなかったです。

今、委員の皆さんがお話になった中にも、ためになる言葉が出ていまして、私も毎回勉強になると感じています。

飯田らしさの根底にあるのは、「大きな公民館を目指せばいいのではないか」ということを委員会でお話したと思うのですが、公民館という独特のものが、それぞれの地域で活動が活発になっていく、その中で小さなコミュニティからどんどん広がっていき、市全体につながっていく。これこそがまさに新しい文化会館につながっていくのではないかとも思います。

本当にやっと基本構想がまとまったところですので、これから現実的に見えてくるところであり、楽しみです。

今日はありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

〇〇さんお願いします。

○学識委員 皆さんこんばんは。学識委員として、これまで関わらせていただきました。

本日は、基本構想最終版の報告で、この後パネルディスカッションがありますので、まずは報告までのところで区切って話をさせていただきますと、本日の委員の皆さんのご発言を伺っていまして、改めて、この基本構想が大変よくまとめられた、委員の皆さんの思いを反映させたものだと思います。

委員の皆さんのお話をお伺いしていると、やはりその「飯田らしさ」とか「飯田方式」という「飯田の文化会館」がまず来ている。「飯田の」が最初に来ているということ。それから後は「集う」ことに非常に皆さんが力点を置かれていることが、委員の皆さんのご発言を聞いていて印象に残りました。

そういった視点で、この概要版の、開いて左下を見てみると、「集う」「観る」「創る」「伝える」「育む」があるのですが、その中心に「集う」があります。5つが並列にあるのではなく、まずは誰もが「集う」こと。それが前提にあってその中で「観る」「創る」「伝える」「育む」が起きると書かれている。これは今までの委員会での皆さんのいろいろなご発言を伺っていても、非常に重要な点だと思っています。

先ほど飯島委員から「理念のところもう少し細かく」というご発言もあって、その面もあるなと思いついて伺っていたんですが、通常はこういう構想をまとめると、ついついまとめるという作業がアウトになってしまって、どこの基本構想を読んでも同じ感じになってしまうのですが、今、手元の基本構想を見ると、そういう部分がなく、きちっとこの委員会の議論の内容が反映されたものになっていると感じています。この後、パネルディスカッションがあり、そこではこの最終版のまとめというよりは、次に向けてのステップのお話を議論させていただきますので、まずはこの基本構想の最終版の感想を述べさせていただきます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは続いて、オブザーバーをお願いします。

○オブザーバー こんばんは。

私は、オブザーバーという立場をいただきまして、本格的にこの基本構想の中には立ち入れない立場でもって感想を申し上げたいと思います。

実は、ずっと今日文化会館へ来て一人の方を思い出しておりました。それは小澤廣人さんという方です。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、伊那谷文化芸術祭とか、あるいは演劇宿とか、全ての市民の関わるこの音楽文化活動の哲学をずっと市民に伝えてきた方です。もう亡くなられてしまいましたが、その方だったらどう思うだろうと考えながら、話を聞いておりました。

まず、この飯田、新しい文化会館の基本構想の策定に当たって、特に舞台芸術を通じた飯田の文化活動、この担い手であり、また飯田らしい文化活動を行っている皆さんが語った思いは非常に格調が高く、そして飯田下伊那全体の市民の言葉で基本構想がつくられたという

ことで感動さえ覚えます。大変お疲れさまでした。

この基本理念は、新しい文化会館がどこにできようとも、どこに造られようとも変わらない理念だと思っています。ただ、いざ文化会館をどこへと考えるときに、実際、私たちが関わった基本構想には、8ページに「舞台芸術に関心のない方も立ち寄ってみたいくなるような、さまざまな方が日常的に集い、交流できる施設となるよう周辺施設やまちなか空間などと結びつく施設を目指します」と書かれています。新しい文化会館が建設されて、私たちが使用する頃にはリニアの開通という交通の大革命が、このまちの社会や、あるいは経済のあり方を大きく変え、特に、経済活動の流れが、まちやこのまちの形に大きな変化が起きるということは、予想できることです。

さらに、よく言われておりますが、人口がどんどん減少していく。長野県の人口もつい最近200万を切ったという報道がなされましたが、こういった社会情勢も予想を遙かに超える勢いで、飯田市の財政が厳しくなっていくことも心配され、新しい文化会館、本当に期待どおりできるのだろうかということさえも心配になってきます。しかし、そこにあえて抗おうとする気風が文化活動の現場の皆さんや市民、そして市にないと、これまで語られてきた飯田らしい文化活動を未来につないでいくことは困難だと私は考えています。地域に根を張って文化活動の現場にいる私たちだからこそ、未来永劫、大切にしなければならないことだと考えます。

「経済は文化の僕である」ということを教育産業のベネッセの会長さんがおっしゃっていました。このことは、目先の損得や経済合理性ばかりにとらわれてはいけない、一人一人が理念やビジョンといった大義に重きを置いて考え、行動する風土をそのまちにつくるべきだ、という意味だそうです。

飯田市には、江戸時代以降、数百年にわたって現在に至るまで文化がストックされ続けている、そういう人が集うふさわしい場所が現在もあります。そこそがまさに文化活動の拠点となるべきではないかと思っております。用事があるときだけ、コンサートがあるときだけに集まる施設ではなくて、自然に人が集う、そんな施設があるまちであってほしいという、まちづくりと文化会館は切って離せることができないとの思いをかなえる建設場所というものは、基本構想の文字面には明確には表れていませんが、有識者の先生方を含めて、検討委員会の大方の皆さんの深い強い思いが込められております。こうした検討委員の思いがありながらも、この先、飯田市、並びに当局の思惑や議場によって恣意的に妨げられることのないようにという意見を、私は強く申し上げたいと思います。

最後に、教育委員会には検討委員会が重ねてきた膨大な会議記録をエビデンスとして、今

後、職員担当者が替わろうとも、どんな思いで何を語られてきたかを大切に引き継いでいただきたいと思います。それはオブザーバーとして、本日私が語った私の思いもです。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

3 パネルディスカッション [特別対談]

○委員長 パネルディスカッションに移りたいと思います。

改めて、パネルディスカッションの趣旨を事務局から説明をお願いします。

○事務局 これから基本構想を具現化していく基本計画に移っていくわけですが、きっかけとなるパネルディスカッションを、学識委員の方3名と委員長にご登壇いただいて、「基本計画に期待するもの」というタイトルでお願いしたいと思います。それでは、ご登壇いただき、パネルディスカッションへ入っていききたいと思います。

先生方のプロフィールは、今日の資料の次第裏面に書いてあります。それでは先生方よろしくをお願いします。

○学識委員 それでは、パネルディスカッションに入らせていただきます。

私、本日、ディスカッションの進行を務めさせていただきます〇〇です。よろしくお願いします。

今の説明にありましたが、基本計画に期待するものということで、先ほどの発言のときにも少し触れさせていただきましたが、本日の委員会が、このパネルディスカッションまで含めて、基本構想の最終の委員会であるとともに、基本計画のキックオフ、そこに向けてどういうスタートを切るかという意味合いもあると理解しています。そのことは基本構想の概要編にも書かれていますが、概要編の冒頭の文章の最後の段落、「この基本構想は新しい文化会館の進むべき方向性を描いたものです。建設に向けて今後策定する基本計画や管理運営計画などの根幹となり、新しい文化会館が開館した後も、恒久的に事業や施設運営のよりどころとなるものです」と書いてあるのが、私は非常に重要なことではないかと捉えています。

これまで委員会を通して基本構想を策定してきました。ともすると、「今日は基本構想策定の最終回、お疲れ様でした。次から基本計画が始まります」という形で、「基本構想は夢であって基本計画が現実である」、「夢と現実は違う」という議論になりかねないと思います。

そういった中で先ほど来のご発言にもあるように、この基本構想には含まれていない立地の問題や、予算の問題は出てくると思いますが、この立地や予算は、「夢を取るのか」、「現実を取るのか」という問題ではなく、私が読み上げた文章を基に考えれば、基本構想とは、今

後基本計画を策定していく、あるいは実施をし、実際に館ができ、管理運営がなされていくときのよりどころにずっとなり続けるものであることが、ここにうたわれているのは非常に重要なことだと思っております。すなわち、基本構想という理念・方針をもとに、そこに現実の予算や立地を考慮し、基本構想を実現する基本計画を策定することが次の段階であると考えています。次の段階のキックオフに向けて、基本構想策定に携わった委員長、それから学識委員の方々に、今までに十分に発言できなかった部分もあるかと思いますが、振り返りではなくてこの先を見据えた中で、それぞれの専門分野、お立場の中で、これだけは伝えておきたいことをご発言いただければと思います。

パネルディスカッションですが、ディスカッションにはこだわらず、それぞれのお立場で今後に伝えたいこと、これだけは言うておきたいことを順番にご発言いただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それではまず、〇〇学識委員からご発言をお願いします。

○学識委員 ありがとうございます。

やっぱり今、飯田文化会館を実際に使っていらっしゃる方々が、新しい文化会館でより活動の幅が広がり、そしてまたそれを楽しめる施設になることが一番重要だと思います。

例えばですが、先ほどもお話が出ていました、貸館のホールも、日本中のほとんどのホールが駅前に立派にあっても、イベントがないと閉まって真っ暗です。オーケストラで活動しているとき、日本中を旅するのですが、コンサート当日でも、朝一番には真っ暗な状態で、「楽屋口どこなんだろう」、「事務所の入り口どこなんだろう」、それがお客さんが入る開場直前まで続くんですね。飯田文化会館はホールの入り口は比較的大きくはないんですよ。イベントがないと閉まっているが、ここは事務所の入り口が下の入りやすいところにある。それで、市民の皆さんがどンドンどンドンホールに入っていくやすい。これが僕は一番重要じゃないかと思えます。

最近の新しいホールだと、ホールごと、施設ごとに区切られて入り口がある施設が多くなり、できればそういうホールにするべきだと。その中に、例えば飯田に根付いている文化を紹介するコーナーや、子どもたちが集える場所、遊べる場所があることで親子も安心して劇場に足を運べる。それがまた同時に、劇場のにぎわいの活性化やまちの活性化につながるのではと思っています。

最初に申し上げた、皆さんが使い、それがさらに発展するという点で言えば、今の文化会館では足りないところは絶対変えていくべきであると思えます。飯田文化会館のホールのステージはフルオーケストラには狭いです。間口も、奥行きももう少し広げたい。今、標準的

な舞台だと間口が 20 メーターぐらいで 10 間ぐらいか 11 間ぐらい。それから奥行きは 6 間ぐらいが最低でも必要になると思います。

さらに、昇降できて、客席面より下がってオーケストラピットにもなり、舞台面まで上がって張り出し舞台としても使える、そういう設備を持つことによって、より大きい舞台面積を確保することができる。今までの飯田文化会館にはないので、ぜひ取り入れられると、規模の大きいものにも市民の皆さんが触れ合えるのではと思います。

また、最近の技術も非常に素晴らしいものがあります。音響の特性も、例えばコンサートホール専用や、お芝居専用にしてほしい、それぞれの立場でいろいろあると思いますが、例えば、客席のほうに音響の残響の可変装置をつけることで、ある程度の生の楽器を響かせる残響を設定することもできれば、生の声が聞きやすい、または P A を通したマイクの声が聞きやすい、そういう特性をつくることもできます。今の専門家たちの持っている技術は本当に素晴らしいので、皆さんの意見も取り入れながら、ぜひホールの音響設計に進めてほしいと思います。

それに加えて、反響板も、飯田文化会館のホールは吊り上げ方式です。最近のホールは、反響板が後ろにあり、前に出ていくことで反響板のサイズを変えることができ、いろいろな演し物に対応したりします。そういう技術とか設備面もできるだけ新しいものを取り入れられるようになさったほうがいいのかと思っています。

先ほども申し上げた飯田の場合は、見る、裏方、表方、演じる、いろいろな立場で関わる方が多いので、それぞれいろいろな意見をお持ちだと思います。これからは実施設計に入っていくとこまで、それぞれの立場でいろいろと意見をおっしゃっていただいて、できるだけ実現して、それを皆さんがちゃんと使っていく、劇場がにぎわっていく、それが一番重要だと思いますので、ぜひそういったホールを目指してこれから進めていければいいかと思っています。

○学識委員 どうもありがとうございました。

具体的なお話もいただいて、新たなホールのイメージもできるお話だったと思います。

それでは続いて、〇〇委員、お願いします。キュレーションやプロデュース、そういった視点からのご意見を頂ければと思います。よろしくお願いします。

○学識委員 次の基本計画としますと、僕の頭の中は現実的なほうの脳が働いてしまいます。ただ、〇〇先生が前振りをしていただいたように、今日、基本構想がこれからの新しい文化会館のよりどころになるというのは、公共ホールの運営者として、そのとおりです。全て、公共ホールも厳しい運営状況にあるのですが、必ず事業評価、自己評価が定期的にあります。その

ときに基本構想・基本理念に立ち戻って、実現できているかどうかという視点は必ず出ます。これが継承されていることが公共ホールにはとても大事です。ただ、それが薄まる時、伝わらないタイミングがどうしても出てくる。それは、人材の育成と確保、定着が疎かになると、人がどんどん変わり伝わらなくなる。

もう一つは管理形態が変わってしまう。指定管理制度で公募型になると、基本構想より、提出した企画の実現に重きが行ってしまい、基本構想が忘れ去られてしまうのが非常に怖い。ですので、基本構想を常に念頭に、大切にしながら、魂ができてないホールに魂が宿ったというところが印象に残っているんですが、その魂を劇場は受け継いでいきます。それが人が変わっても、劇場に継承され続けることが大事なので、そこを踏まえた基本計画が大切になってくるが大前提です。

公共ホールの建設にあたって劇場や自治体でお手伝いした経験で言いますと、今度、基本計画ができて、より実現化してホールを造っていく、直前になって管理運営計画というより具体的なものが出てくると思います。その管理運営計画ができた後は、実際のホール運営になると今度はもっと細かな計画をつくっていくことになるのですが、管理運営計画はかなり基本理念を反映させた事業を展開していきますということが重要視されてくる気がします。ただ、今回の基本計画と言いますと、その魂の基本理念を受け入れ、実現させていく器といえますか、「劇場がどういった機能が必要なのか」、「どういった工夫が必要なのか」、「どういったデザインが必要なのか」という細かなところをより漏らさないように、しっかりと広い視点で、こういったことを実現するためには、この工夫が必要だということを漏れなくチェックして、計画していくことが、とても大切になってくると思っています。

また、先ほどの〇〇さんのお話にもありましたが、オーケストラを実現するためには、「この動線が必要だよ」とか「こういう壁の色が必要だよ」、人形劇を実現するためには「こういうのが必要だよ」と、そちらに魂を受け入れる器づくりのほうが重点になってくるかなというイメージがあるのですが、ただ、その魂を知った上でつくっていかないと、こぼれてしまう、そこは気をつけないといけないというのも1点。

あと2点ほどあるのですが、ここ数年、公共ホールの運営者にとっては非常に厳しい状況でした。といいますのも、物価高、人件費高、人手不足が本当に厳しい状況です。交通費やホテル代が高くなった、あとチラシの印刷費が高くなってきたなという実感があつたのですが、出演料や舞台スタッフの賃金も上がった、そういった荒波があります。それを乗り越えなくてはならないのですが、物価のことなので仕方がないのですが、スタッフの確保は非常に厳しい状況です。

そこで、地元の人材、そこで足りないところは大きく公募し、積極的な人を集める必要があると思いますが、確保できないのです。どれだけ募集しても、締め切りなしで1年365日募集をしても、特に専門家の応募がない状況なので、人材の確保と育成、定着が大事になってきます。

そのときにアートマネジメントの専門家、違う考えの方がいたら申し訳ないのですが、アートマネジメントというのは芸術活動と社会をつなぐという間のところで企画をする、実践していくところは認識されていると思うのですが、プラスその活動を社会で可視化して、地域の人たちやステークホルダーの人たちと共有して、次の活動の原資を生み出す活動につなげていかななくてはならない。その部分はとても大切ですが、ここの人材がない状況だと思います。これを生み出すためには、やっぱりいろいろな付加価値が必要ですが、人材の確保と育成のところも考えた基本計画が必要だろうと思っています。

あとスペックです。建物のハード面で言うと「スペックも古くていいです」とは絶対いかないと思います。今は電気で窓が動いて、操作卓も液晶になってしまうと思います。そうになると、安全・安心の管理が厳しい事情を求められますので、今まで演出のお手伝いをしてきた舞台スタッフの人たちが管理に回ることになり、そこでスタッフの動員が必要、もしくは今までと同じ人数ですと安全のほうへシフトしてしまうこともあります。そういったところも含めて、どういったことを劇場で行われるのか、そのためにはどういったスペックで、どういうスタッフが必要というところまで基本計画に入れる必要があると思います。

特に、劇場ができて最初の3年、5年というのは、投資の期間です。ここにいかに効率的に効果的に投資をしていくか。投資の質と量、アイデアも、そこがホールの10周年、15周年、20周年に必ず出てきますので、そこまで入った計画を立てることが大事ではないかと思っています。

少し厳しい意見になってしまいますが、以上になります。

○学識委員 どうもありがとうございました。

まさに基本計画が単なる空間づくりだけではなくて、いろいろな運営等の考えも入れ込まなければいけないというお話、非常に参考になりました。

それでは最後に、委員長、地域で活動されているお立場、それから、この基本構想の委員長として関わられてこられたお立場からお願いします。

○委員長 この委員会で何が楽しかったかという、先ほど委員の皆さんから感想を言っていただき、それから今、学識委員の先生方から具体的な話をされましたが、こういう話を聞けるところが委員会の中で楽しかったことの一つです。この委員会に参加させていただいて良かつ

たなど毎回思いながら家路につける、こんな幸せなことはなかったと思っています。

中でも一番印象に残っているのが、「ひろば」という言葉が皆さんの中から生まれてきたことです。「人が自然に集まってくると広場になるんだよ」という話でしたが、それいいな、自然に皆さんが集ってこられる場所、そういう環境・空間が今、皆さんに必要とされているんだと思います。そうすると、これを実現するにはどうするかという話ですが、いきなり実現になるんです。期待するというよりも、自分がどう動けるかということが勝負のような気がします。私はどう思ったかといいますと、ここにお集まりの方々だけではなくて、文化会館にお世話になっている、コンサートがあったときには足を運んでいただく、そういう方々に「あ、文化会館に行ったら楽しかったな」と、また足を運んでいただく。それを繰り返しながら、「文化会館に行くとなんか楽しいことがあるぞ」、先ほどどなたかがおっしゃっていましたね、そういうところにしたい。皆でそれをつくっていきたいと思います。

先ほど〇〇さんがおっしゃった、子どもがここに来て楽しかったと思い、東京へ一旦出るけど、飯田に戻り、今度は誰かの役に立ちたいと、そのお話をお聞きしたときに、「あ、それだ」と思いました。「育む」とはそういうことかと思うのです。「何かするから集まれ」というのではなくて、もちろんそれも必要なんですが、自然にその環境の中に身を置いて、その中で楽しいことを見たり、聞いたり、発見したり、自分でやってみたりした子どもたちにとっては「集まれ」と言わなくても自然にまた帰ってくるのではないかと思います。

基本計画に期待するのではなくて、私たちに何ができるか、実現するためにどうするか、基本理念を実現するために、私たちが何をやるかということのような気がしています。

以上です。

○学識委員 どうもありがとうございます。

今のご発言を聞いて、「この委員会の特徴として皆さんのご発言が、自分が主語になっている」というご発言を委員の方がされていたことが非常に印象に残っていたことを思い出させていただきました。

それでは、3名の委員の皆さんから今後に向けての熱い思いを伺ったところですが、そろそろ終了の時間が近づいていますので、皆様から質問をお受けしたいと思います。質問のある方は挙手をしていただけますでしょうか。

下井館長。よろしく申し上げます。

○館長下井 それでは今のパネルディスカッションを受けまして、質問、意見のある方は発言をお願いします。今日は整備検討委員会という位置付けなので、委員の方からの発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○館長下井 よろしいでしょうか。

それでは、〇〇先生にマイクをお返しします。

○学識委員 分かりました。壇上の委員の皆様からご発言いただけるかと思えます。

〇〇委員お願いします。

○学識委員 この資料にもあるように、基本構想が根幹となり、ずっと続いていく。そのためには、先ほども管理運営の話が出ましたが、飯田文化会館は市の直営でいられています。僕らも利用させていただいて、同じスタッフ、もちろん働くスタッフは今後変わるでしょうが、同じ体制でずっと運営されていくのが一番重要なことであって、そんな体制であるから、これまでの飯田の皆さんの事業もずっと続いてこられたと思います。ですので、ぜひ管理体制としては市の直営が一番望ましいのではということをつけ加えさせていただきたいと思っています。

アフィニスの頃から毎年毎年お邪魔して、事務局に顔を出すとスタッフの皆さんがお帰りなさいという雰囲気でお迎えくださる。これも飯田らしい一つでした。

以上です。

○学識委員 〇〇委員お願いします。

○学識委員 私も運営形態は心配であるというか気になります。

私もいろいろな形態を経験してきましたし、公共ホールとかの運営形態はさまざまなお意見があることも理解しています。

何が重要かという要素だけ私からは話します。今、〇〇さんがおっしゃったとおりです。利用者さんや、キャストの方、スタッフの方と長く向き合っている人たちが一番、本当に心温まります。信頼も非常にそこが高いですので、その形がキープできれば、この基本理念は継承されていくのだと思います。そこが不安定になると、公共ホールは難しくなるので、大事だと思っています。

それに私、先ほど基本計画のほうで魂が宿ってない話を出したんですが、それをしっかりと受け継いで、今度、管理運営計画はこの基本構想の魂とそれを受け入れる器をマッチして、もっと現実味のある、魂のある温かい計画をつくっていくことになるかと思えますので、さらに期待したいと思っています。

○学識委員 私からも最後に感想だけ述べさせていただきます。

第1回目の委員会の際に、私は都市デザインの専門家ですが、「日本の広場というのは広場化される」というお話をさせていただきました。西洋の広場は、最初から都市の中に広

場という形で組み込まれ、そこに人が集まってくる。日本の広場は、神社の境内とか橋のたもととか、本来は広場としてつくられてないところに人が集まり、活動をして、それが広場という形で定義されるようになる。すなわち、空間の役割というのは、人の活動、アクティビティが主導して決められるというお話をさせていただきました。

先ほどの塩澤委員長のご発言にもありましたが、「ひろば」という言葉がまさにそれに当たっている。飯田の文化会館というのは、文化会館という箱があって、その中で人々が箱の役割の中で活動するというよりは、そこで活動する一人一人の皆さんが文化会館という場所を広場化していく。そして、さらには「集う」という皆さんが非常に重要視していることを考えると、まち全体が文化の広場としてつくられていく、そんな文化会館の将来像、まちの将来像のようなものを皆さんとの意見交換を通じて感じさせていただきました。

これでパネルディスカッションは終了とさせていただきます。基本構想の委員会もこれで終了ということになるかもしれませんが、ここで皆さんが議論された内容が、これからのよりどころとなって基本計画、さらには将来的な管理運営にまで反映されていけばと思います。本当に長い間ありがとうございました。

どうもありがとうございました。

(拍手)

○委員長 ありがとうございました。

ただいま〇〇先生の最後におっしゃった「これで終わりじゃない」と先ほどキックオフというお話もありましたけれど、これから基本計画にあたって、ところどころで後半という話がありましたが、私たちもまた意見を述べさせていただく機会があるということなので、ぜひこれで終わりではなくてこれが出発、私たちが心血を注いで考えてきた基本理念が生かされているか、生きているか、ちゃんとそこに流れているかという目を持って見守っていきたい、意見を述べていきたいと感じました。ありがとうございました。

最後に佐藤市長から本日のまとめを含めて、今後に向けてのご発言を、よろしくお願いたします。

○市長佐藤 最後の整備検討委員会ということで、改めて委員の皆さんには感謝を申し上げたいと思います。2年間本当にありがとうございました。

先ほどからお話があるように、今日が新たなキックオフでもあるということなので、これから、ある意味大変な議論をしていくことになるわけですが、先ほど〇〇先生からお話があったように、夢と現実の違いということになりかねないところを、今回の基本構想をよりどころにしながら議論をしていくことになるわけです。

もちろん現実というのはあって、いろいろな制約があるわけですが、その夢と現実をどう乗り越えていくかというのは、ある種の弁証法的な議論と申しますか、片方が成り立つと片方が成り立たないというところを、どうやってアウフヘーベンするかといった議論になっていくわけです。

先ほど市当局の恣意によって左右されないという発言がありましたが、そういう姿勢で臨んでる人はこの場には誰もいないと信じていますし、そういう姿勢で臨んでいる市の職員は誰もいないわけで、今、申し上げたように、現実と理想のところをどう乗り越えて、基本構想をよりどころとしたものを実現していくかという議論がこれから進んでいくわけです。なので、その議論をまた委員の皆さんには見守っていただきたいですし、学識委員の皆さんには実際に基本計画づくりの中心となって議論していただきたいと思いますので、ぜひ引き続きのご尽力をお願いします。また、委員の皆さんにも、これからさらに大変な議論になりますが、どうか引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

本当に、これまで2年間の委員としての活動に、改めて感謝を申し上げますとともに、これからまたお世話になりますということをお願ひして、私からのあいさつとしたいと思ひます。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

(拍手)

○委員長 ありがとうございます。

本日予定されておりました議事は以上となります。

委員の皆さんには進行にご協力いただき、突然の振りにも応えていただき、ありがとうございました。

この委員会としては、来年度も意見交換の機会が想定されているとのことですので、先ども申し上げましたが、引き続きよろしくお願ひします。

また、会場で今夜、傍聴いただいた皆さん、本日はありがとうございました。引き続き、大きな関心を持っていただいて、新しい文化会館に向けた検討にさまざまな立場で関わっていただけたらうれしいです。よろしくお願ひします。

4 事務連絡

○委員長 最後に、事務連絡を事務局からお願ひします。

○補佐筒井 事務局、筒井です。

事務連絡としまして、本日の委員会に関しまして、今後の基本計画の進め方も含めてご意見等ありましたら、随時、事務局文化会館でお受けしておりますので、お気軽にご連絡いた

できればと思います。

なお、整備検討委員会を来年度も引き続きお願いしたいということをお話しましたが、改めてまたご連絡を差し上げたいと思います。

また、現委員の皆さん、任期を延長していただくということをお願いをしたいと思います。が、今後、所属団体の関係で役員が交代されることがあるかもしれませんので、その都度ご相談いただければ事務局で対応させていただきたいと思います。

事務連絡は以上です。

○委員長 ありがとうございました。

4 閉 会

○委員長 それでは、以上で第 11 回新文化会館整備検討委員会を閉会とします。

どうも、ありがとうございました。

閉 会 午後 8 時 0 0 分